

発行日： 平成30年 5月15日

発行者： 今村証券株式会社

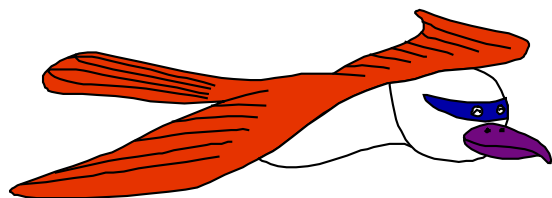
金融商品取引業者 北陸財務局長（金商）第3号

日本証券業協会加入

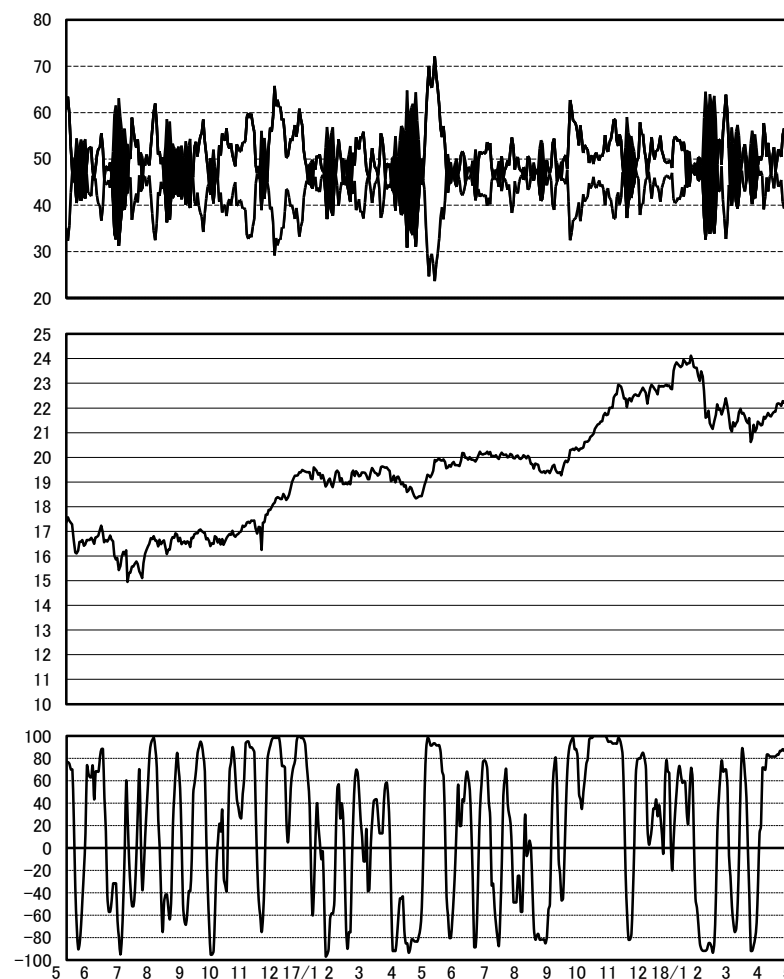
制作責任者： 営業業務部 調査課

情報シャトル特急便

第620号



Dynamic Psychological Ratio 9



上図は騰落銘柄数をベースとした独自のもので、黒の幅が拡大→買い場、白の幅が拡大→売り場
下図はRCI（9日ベース）で、 -80%ラインを上につき抜け→買い場
80%ラインを下につき抜け→売り場

大 所 高 所

海外に沢山の知己を持つ I I J 会長鈴木幸一氏のブログによれば、米国トランプ大統領は自分のことを比類の無い天才だと信じ、自信満々のようだという。あながちそれを馬鹿にしてばかりもいられない。大方のマスコミから散々に叩かれ続け、セクハラやロシアゲート問題など醜聞に塗れて、普通の神経ならとっくの昔にノイローゼに掛かってもおかしくないのに、毎日のようにノビノビと傍若無人のツイッターを放ち続け、支持率も持ち直しつつある。

トランプは偽善者ではなく素直なのだ。腹に一物を持ちながら進歩的文化人を気取るのではなく、あくまでも本音で行動する。その結果、これまでの政治家とは全く違う動きとなって、相手は当惑する。しかし本音には本音で付き合わざるを得なくなるから、意外に物事が速く進む。

北朝鮮の問題についても、裏でこっそり巧妙に助けてきた中国を表舞台に引っ張り出すことに成功した。通商問題についても中国を押しぎみだ。ロシアに対してはシリア空爆で強く牽制した後でサッと引いた。うまいものだ。そして米国経済は好調で、株価も高値を維持している。

その結果、あれほど高慢だった中国が揉み手をしながら我が国に揺り寄ってきたではないか。ロシアもそうだ。我が国にとってのトランプ効果を、もっと評価しても良いように思う。

(B I S)

た だ 一 筋

日経平均株価は日中の値幅こそ小さいものの、ジリジリと上昇を続け、この3日間続伸、上げ幅も450円超と堅調な動きとなっている。この背景にはNYダウの8日連続高や、ほぼ出揃った決算発表で今期の企業収益が「予想ほど悪くない」との安心感が出てきたためと思われる。そして、これまで売り主導していた海外投資家の買い転換や、110円を突破しそうなドル円相場、加えて、6月12日に開催決定した米朝首脳会談への期待等々も投資家心理を良くしている。一方、騰落指数での高値警戒感、中東リスク、米国金利上昇による新興国通過安等々の注視すべき懸念材料も多く、当面の相場見通しは上値の重い展開を想定せざるを得ない。

さて、このような状況下、ここからの投資銘柄には慎重姿勢が必要だが、中小型株から好業績銘柄を買っていく姿勢は堅持し、日経平均株価と比べ、戻りの鈍さが際立つ東証マザーズ指数が下げ止まり、上値追いする動きを待ちたい。

個別銘柄だが、直近上場したHEROZ(4382)の初値(49,000円)からの急落(19,880円)ショックからの脱出に期待したい。また、好業績を素直に好感して急騰してきたヒラノテクシード(6245)、日本バルカー工業(7995)といった景気敏感株の新高値更新も期待している。

(三感王)

参 見 屋 当 たり

今月に入ってから日本株式は米国株高もあり、じりじり値を戻しつつあります。今後も海外情勢などで振られる場面もありそうですが、期待していきたいと思います。

その中で中小型株に注目しています。一つはパーク 24 (4666) です。国内駐車場が事業の柱ですが、第二の柱としてカーシェアリングが伸びてきています。自動車は自分で保有せずシェアリングするのが当たり前…という風潮がじわじわと都心部では広まっており、カーシェアリングで国内首位のパーク 24 がその市場の覇権を握る可能性もありそうです。

次に食べ放題「焼肉きんぐ」などで知られる物語コーポレーション (3097) に注目しています。ポイントは常に社員教育に予算を割き、積極的に外国人も採用している点でしょう。外食産業の人手不足への対策も万全であり、独り勝ちになる可能性があります。

相場は短期では騰落レシオなどで過熱感が出てきていますが、中長期では伸びる企業は色々あるように思います。

(NO. 8)

中 堅 の 視 座

決算発表が本格化し、株価も大きく動き出してきた。日経平均の上昇は打たれ強さを示し、23,000 円に向けての相場に期待が高まる。最近では東京電力を始めとする電力株の上昇も目立ってきている。今までと違った大きな資金の流れが感じられ、このような動きはますます株価の上昇を期待させる。

しかし、今後の米国の金利上昇と米中貿易摩擦、米朝首脳会談の動向には引き続き注目が必要だろうが…。

為替の動きによっては業績の修正もありうるので、特に想定為替レートを1ドル＝100 円にしている三菱電機（6503）に注目している。1 月から下落が続いているが、このまま為替が110 円辺りになるなら業績修正が加わり、上方修正の可能性も十分考えられる。

あとは通訳機「POCKETALK（ポケットーク）」のさらなる需要拡大に期待して、ソースネクスト（4344）。百貨店やスポーツクラブなどでの採用が相次ぎ接客ツールとして活用されている。またソースネクストが提供している語学ソフトのスマホアプリ「Rosetta Stone（ロゼッタストーン）」などの需要拡大にも期待できる。

（おにぎり）

きらきら星

4月中旬からゴールデンウィーク開けまでの相場展開は、外部要因や為替に揺さぶられて方向感に欠けたものでした。しかし、堅調な企業業績に支えられて、底堅い展開だったと言えるでしょう。日経平均は下げの半値戻しを達成したので、全値戻しを期待したいところではありますが、1～2月相場のしこり感が完全に払拭されていないので、米朝首脳会談終了まではボックス相場が続くと予想します。

決算発表後のトヨタ自動車や資生堂の株価の動きをみると、物色意欲が旺盛であることははっきりしているように思われます。業績見通しからの個別銘柄の選定力が問われる局面であり、決算発表後に株価が上に反応してきた銘柄に注目してゆくことが大切ではないでしょうか。

アンリツ (6754) …19年3月期営業利益 34%増の予想。5G 向け主力の計測器が急回復。中期経営計画で 21 年 3 月期の営業利益 145 億円と 3 年で 3 倍とする目標も評価できる。

アイティフォー (4743) …人工知能 AI 分野で高い技術力。ホワイトカラー業務をロボットによって自動化する RPA 分野大きく伸び始め、総務省からの受注実績もあり。19 年 3 月期の営業利益 30.2%増予想。(WR452)

デジタルの俯瞰

決算発表シーズンもようやく峠を越えつつある。全体的に、おおむね良好に着地したといえるが、今回の決算発表ラッシュの主役は、何といたっても黒鉛電極だった。急落した直後の決算発表だっただけに注目されたが、日本カーボンを皮切りに、東海カーボン、昭和電工、SECカーボンと、桁違いの業績変化率を見せて、大幅高を演じた。

その背後で、ひっそりとだが、不動産セクターも好決算を発表している。大手5社すべてが売上高で過去最高を更新し、うち、4社が最高益。賃料引き上げが進んでいる印象だ。例えば三井不動産などは一気に年初来高値を更新するなど、足取りは変わりつつある。

その流れで、TBSホールディングス(9401)に注目。テレビ業界の視聴率低下は、ことあるごとに取り上げられるが、ここはもうすでに不動産の会社だ。例えば、先日発表された平成30年3月期の決算短信を見ると、放送事業のセグメント営業利益は33億円にすぎないが、不動産事業は同79億5400万円と、放送事業の2倍以上の営業利益を稼ぎ出している。売上高だけでみれば、もちろんTBSはまだ放送事業の会社だが、利益面からいえば、TBSはもうほとんど「放送事業もやっている不動産企業」なのだ。物件は、フジなどとは異なり、赤坂に集中させているところが特徴で、赤坂Bizタワー、赤坂ザ・レジデンスなどを手掛ける。

「本業」の不動産で着実さを、「副業」の放送事業で変化率を期待する。(パブリカ)

アナリストによる北陸企業便り

(織田真由美)

＜不二越＞

2018年11月期第1四半期決算発表後に株価が急落した。先行投資費用の増加、原材料価格の上昇を背景に、第1四半期の営業利益が前年同期比4.1%増の38億89百万円にとどまったこと、ロボット事業の受注高が前年同期に大口案件があった反動で前年同期比9.8%減少したことが嫌気されたものだ。

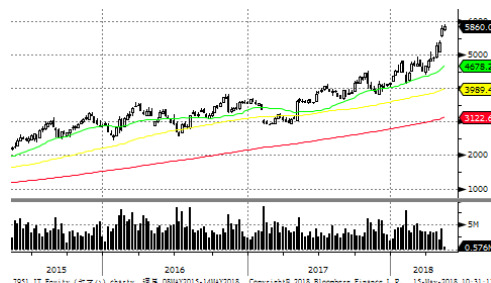
とはいえ、受注は総じて好調だ。ロボットの第1四半期の受注高は91億5百万円と高水準を維持し、受注残高も154億86百万円と高水準にある。また、油圧機器やベアリングの受注高は同2割程度の増加となり、工具や特殊鋼も回復、全体の受注高は同11.6%増の640億87百万円と増加した。コスト面では、先行投資費用は第2四半期以降抑制され、原材料価格の上昇も製品価格に転嫁されるようだ。会社では通期業績予想を据え置いている。原材料価格の上昇、固定費の増加については引き続き注視する必要があるが、決算発表後に売られたことで株価のバリュエーションには割安感がある。

なお、今期の想定為替レートは対米ドルで110円、対ユーロが125円、対中国元が16.5円。為替感応度は対米ドルで1円の円高が年間約1億7千万円～1億8千万円の営業減益要因、対ユーロで1円の円高で年間約5千万円の営業減益要因、対中国元で1円の円高で年間7億円の営業減益要因となる。

罫線中僧

7951 ヤマハ

週足



日足



2019年3月期の決算予想がほぼ出揃った。円安一服、資源高、米中の通商摩擦などの事業環境のもと、慎重な決算予想が多い印象だ。ただ経営努力の積み重ねで稼ぐ力は底上げされて小幅の落込みにとどまり、景気後退があっても谷の浅いものになりそう。今後は四半期決算で2019年3月期決算予想を確認していく株価トレンドとなり、独自の強さで業績拡大を続ける企業、またどの産業・商品が先導して次の景気上昇へと導くかを注視しなければならない。

今回は、電子ピアノ世界首位、半導体やAV機器も展開している楽器メーカー大手のヤマハを取り上げたい。2月以降の波乱相場では75日移動平均線を支持線として上昇トレンドを形成、ドイツ証券による新規BUYなどを起点に4月24日に窓明けの上放れ。5月14日5,920円まで上伸、移動平均線との乖離が縮小したところで買い出動したい。

出所：ブルームバーグ

(しんのすけ)

* 情報シャトル特急便は、投資家の参考となる情報提供を目的としておりますが、投資にあたってはご自身の判断でなされるようお願いいたします。

株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.1799%（税込）（1.1799% に相当する金額が 2,565 円未満の場合は 2,565 円（税込））の委託手数料をご負担いただきます。株式は、株価の変動により損失が生じるおそれがあります。

非上場債券を当社が相手方となりお買い付けいただく場合は、購入対価のみお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動などにより価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。

投資信託にご投資いただくお客さまには、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費等をご負担いただきます。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資 1 単位当りの価値が変動します。したがって、お客さまのご投資された金額を下回ることもあります。

外国株式・外国債券等は、為替相場の変動などにより損失が生じるおそれがあります。

商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、その商品等の上場有価証券等書面、契約締結前交付書面やお客様向け資料をよくお読みください。